

第3 問題作成部会の見解

地 理 A

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 この大問は、学習指導要領「地理A」の「(2)生活圏の諸課題の地理的考察」における「ア 日常生活と結び付いた地図」に準拠し、地図や資料等から諸地域の自然環境や自然災害について、人間と環境との相互依存関係などに着目して多面的・多角的に考察させることを意図している。問1は扇状地周辺の地形や土地利用の特徴を読み取る力、問2はフェーン現象を事例にその地理的特徴や要因を考察する力、問3はGISを活用して適当な施設配置について検討・構想する力、問4はハザードマップと3D地図から災害危険性と地形との関係性を考察する力、問5は地形改変の状況から宅地災害の地域差について考察する力、問6はいわゆるグリーンインフラを想定し、自然環境の機能をいかした防災・減災の取組みに関する理解について問うている。正答率は相対的に問1で高く、問2で低かったものの、第1問全体の平均得点率としては標準的であった。

第2問 本問は、学習指導要領の「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ 世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。前半は、世界の自然環境と人間の生活・文化との関係から各地の地域性、後半は、人々の生活に影響を与える民族、宗教、言語など世界各地の文化の多様性を、主題図や統計図表、写真などから考えさせる問で構成した。問1では世界で広く食されている食べ物について、生産環境と消費の空間的分布から、各地域の自然環境や農業、食文化の特徴を考えさせた。問2は家畜と人々の暮らし、問3は風と人々の暮らしに焦点をあて、自然環境の制約がある中での、世界各地の特徴ある人間の営みや適応の仕方を考えさせた。次に問4では、写真からアラブの乾燥地域に共通する自然、社会、歴史、文化の特徴を総合的に読み取る力を問うた。問5では、言語や宗教が多様なヨーロッパについて、写真から文化的特徴を読み取り、その地域を判別させた。問6では、多民族国家における現状とその背景を資料から考察させた。問1と問4の写真問題は難易度がやや高かったが、問2や問3は識別性の高い問題であった。他の問ならびに大問全体としては標準的な得点であった。

第3問 本問は、学習指導要領「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ 世界の生活・文化の多様性」の地誌的事項に関する大問である。大問の前半では地域の多様性を、後半では地域の結びつきを題材に取り上げた。問1では、まず地域全体の自然環境の特徴を出題した。問2では、自然環境や農業の関連性から食文化の多様性を空間軸で問うた。問3では、食文化の多様性について主食穀物を事例に時間軸で問うた。問4では、日韓中

の3か国における財の結びつきを考察する力を問うた。問5では、サービスによる東アジアの結びつきを考察する力を問うた。問6では、訪日旅行者の動向から日韓中の人の交流が空間的に一様ではないことを考察する力を問うた。大問全体の平均得点率は標準的で、各小問の正答率をみると、問2と問4で高く、一方で問5は顕著に低かった。また、識別力については、問5で低く、他の小問については大きな問題がなかった。

第4問 学習指導要領「(1)現代世界の特色と諸地域の地理的考察」の「ウ 地球的課題の地理的考察」に関する大問である。主に問1・問2では食料問題、問3・問4では都市問題、問5・問6では地球的課題の相互の関連性についての設問とした。まず問1では、食用作物の飼料や燃料用への転用の実態と地域性について考察させた。また、問2では普段の食事から食のグローバル化や流通との関連を理解させた。次に問3では、メガシティにおいて発生する問題と地域の特性との関連について考察させ、問4では、都市問題と深く関わるモータリゼーションについて、その構造と具体的な変化について問うた。問5では、資源に起因する様々な問題を考察するために鉱産資源に着目し、鉱産資源をめぐるさまざまな現象の関連性について考えさせた。最後に、問6においてはさまざまな地球的課題とかわる先住民族を取り上げ、地域やおかれている立場によって課題との関係が多様であることを考察させた。大問全体の平均得点率は標準的で、各小問の正答率をみると、問5で高く、一方で問3は低かった。また、識別力については、問5で若干低かったが、他の小問については大きな問題がなかった。

第5問 学習指導要領「(2)生活圏の諸課題の地理的考察」の「ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査」に関する大問である。北海道苫小牧市を対象に、調査前の事前学習⇒現地調査⇒調査結果からの考察という過程を辿るように、現地での調査活動や統計類、主題図などを用いて大学入試共通テストで問いたい地理的な思考力・判断力・表現力等を多面的に問うた。問1では、地域の概要を把握するために、山地や市街地などの位置関係を正確に判断できるかを問うた。問2では、地域の特徴的な海岸地形を、形成過程や季節性を踏まえて考察する力を問うた。問3では、位置や地形、海上貨物取扱量を室蘭と比較し、苫小牧の発展の要因を考察する力を問うた。問3を受けて問4では、製造業の業種ごとの特徴とその立地特性、北海道内での各業種の位置づけ等を踏まえて、苫小牧市の製造業の変化を考察する力を問うた。問5では、苫小牧市内部の特徴的な地域の人口構成とその変化を、写真や高校生のメモをもとに判断する力を問うた。問6では、主題図から都市問題を抱える地域の特定とその解決策を構想する力を問うた。全体として、正答率は標準的であったが、問4のように正答率が低い問題と、問1や問6のように正答率が高い問題があった。識別率について、地理A受験者に不利な小問はないと評価された。また、地域的に有利・不利の差は生じていないといえる。

3 出題に対する反響・意見についての見解

第1問 地図の読み取りと活用、及び日本の自然災害に関する問題で、全体的に資料から読み取った情報と知識を基に考察したり、因果関係を考察したりする問題となっており、出題に工夫が感じられるとの評価を受けた。問1は、地理院地図を使って読解力を問う問題であり、扇状地の特徴に関する知識を基に、地域の特徴について考察する良問であるという評価を受けた。問2は、地図から地形条件を読み取り、知識を基に特定の地点で夏季に気温が上昇する要因について考察する良問であるという評価を受けた。問3は、問題文に示された「考え方」を基に、複数の立場から公共施設の配置について考察する良問であるという評価を受けた。問4は、重ね合わせ図が学習の過程を意識したものとして評価できるとの指摘を受けた。問5は、造成住宅地の断面のモデル図から、問題文中の自然災害が起こる可能性がある宅地について考察する

良問であるという評価を受けた。問6は、文章の正誤を問う単純な形式の出題方法を効果的に使っており良問であるという評価を受けた。大問全体としては、図の大きさや問題文の長さに対する指摘もあったが、出題形態や難易度のバランスはとれていたと考える。

第2問 標準的な難易度の設問で構成されており、世界各地の生活文化について様々な資料を用いながら幅広く、バランスよく出題されているとの評価を受けた。問1は図を読み取って文の正誤を判定する問題であるが、もう少し図から読み取れる事象を問う工夫がほしいとの意見があった。全体的には標準的な問との評価であった。問2は図が雨温図等に比較して出題の意図に合わせて思考を促すよく考えられた図との指摘を受けた。問3は自然環境と生活との関連を扱った地理Aらしい出題で標準的な難易度との評価であった。問4はアラビア半島の集落における生活の特色についての小問で易しい問であるが、写真に加えてシバームの位置を地図上に示した方が良かったとの意見もあった。問5は初めて選択肢が9つある問であり、写真の建築物について知識がないと解答が難しいとの指摘があった一方、複数の思考プロセスで考察させる点で工夫がみられたとの評価を得た。問6は多文化主義の様相についてスケールを変えた中での地理的事象の現れ方の相違を問う良問との意見をいただいた。全体として、多面的に地理的事象を読み取らせようとする姿勢は評価されたが、学習の範囲外の知識を含む表現形式については今後の検討課題としたい。

第3問 東アジアの気候と食文化、農業生産、貿易、旅行行動について考察する力を問えているとの評価を受けた。問1は、東アジアの気候について地形を示した地図から考えさせる良問との評価を受けたが、地理的技能の観点からは改善の余地があるとの意見を受けた。問2は、地理Aの生活文化らしい問だが易問と評価され、正答率も高くなった。問3は、日韓中3か国の食料消費の変化に関する問いで、初見のグラフを用いている考察する問題として評価された。問4は、日韓中3か国における財の貿易の方向性を問うているが易問との評価を受け、正答率も高くなった。問5は、サービス貿易について高校生にも人気の韓流を意識した良問と評価されたが、正答率は低かった。問6は、図と地図の読み取りから地理的近接性や訪日目的等に関する知識を基に訪日旅行者の動態を問う、地理学習の方向性を示す問題と評価された。大問全体では、統計資料を用いた国名や指標の組合せが多いとの指摘を受けたが、今後も有効な作問を検討したい。

第4問 大問全体としては、食料問題から先住民族に関する問題まで地球的課題に関する幅広い分野からの出題がみられ、レベルは標準であるとの評価であった。また、全ての問いに資料が用いられ、資料の読み取りや考察が求められたが、大問全体としては、昨年度ほどには解答に時間を要することはなかったとの指摘も受けた。問1は、難易度はやや難しい考えさせる良問との評価を得た。問2は、名称のみの知識を問いがちな題材であるが、知識を使って考えさせる工夫された出題との評価であった。問3は、難易度は標準的との評価を得たが、結果的に正解率は低かった。問4は、やや難しいが、思考力を問えているとの評価を得た。問5は、聞きなれないレアメタルを扱っているが、レアメタルの分布や利用についての基礎的理解があれば解答でき工夫されているとの評価を受けた。問6は、地域や先住民族がおかれている立場によって地球的課題の影響や課題への対処が多様であることを思考させる問であるとの評価を受けた。全体を通して、分量や出題の形式に注意しながら、過度に単純あるいは複雑な問題にならないように小問をバランス良く配置して、より地理的な思考力、判断力、表現力等を問えるような作問を心掛けたい。

第5問 地図の比較や統計データを含む各種資料の読み取りなど、従来の出題傾向を踏襲した問題構成で、地理的な見方や考え方に基づいて解答する点が評価された。また、地域調査の展開

や図表の示し方について、適切であると評価された。一方、全国や他地域との比較からその地域の特色がみえる問題構成への示唆もあった。小問別では、問1は、地図の読み取りで対応でき、平易であると評価された。問2は、地形図の読み取りや地形の形成プロセスを踏まえた問題で、基本的な良問との評価を受けたが、沿岸流や潮汐などが地理Aでは扱いが少なく、他の地形も考慮するよう意見が付された。問3は、港湾都市にかかわる図の読み取りから地域間比較をする問題で、平易との評価を受けた。問4は、製造業の判別について問3との連動性が評価されつつも、前提となる苫小牧市の理解がないと解答が難しいと評価された。問5は、写真と図の読み取りから地域の特徴を判断するもので良問と評価されたが、図の表現で工夫も示唆された。問6は、図の読み取りから地域問題の解決を構想する出題形式で、平易であると評価された。地域調査の問題として、臨場感を出して地域の特色を明らかにしつつ、適切な資料や過程を踏まえて思考力、判断力、表現力等を問う作題を、今後も追求していきたい。

4 ま と め

- (1) 「地理A」の学習内容に概ね合致しており、いわゆる「場面設定」の問題では、実際の高等学校の授業等での過程に沿った出題が評価された。また、単純な読図のスキルや地理的見方を問うだけでなく、スキルと思考力、判断力、表現力等を複合的に問う問題も目立って増えている点についても評価された。高等教育への影響を鑑み、また教科書の内容も踏まえ、求められる知識水準の共有化を進めるとともに、知識定着や地理的技能の活用、更に地理的な見方・考え方の応用といった各側面を総合的かつ適切に問えるよう、今後の問題作成でも継続して留意する必要がある。
- (2) 難易度については、平均点は51.62点で、昨年度と比較して8.36点低下したが、「世界史A」や「日本史A」と比較すると高かった。昨年度までの「地理A」と比較しても低く、この理由として読み取りに時間を要する資料が増加したこととの指摘を受けた。今後の問題作成の際にも適正な難易度について十分留意したい。
- (3) 地図・主題図の活用については、地理院地図の活用が評価された一方で、図表を用いた出題が増えたことで、解答に時間を要する原因となったという指摘も受けた。地図・主題図・模式図・写真を活用した出題や、それらと図表を組み合わせた出題については、情報の読み取りやすさや適正な解答時間への配慮も含め、今後も重要な課題として検討したい。
- (4) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であるとの評価を受けた。今後も、作業的、体験的な学習を通じて地理的な技能や思考力、判断力、表現力等を養うことを重視する「地理A」の内容に即した問題作成を継続していきたい。

地 理 B

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」における「ア 自然環境」に関する大問である。世界の自然環境や自然災害に関連した主題図などの様々な資料から，空間軸，時間軸を踏まえて多面的・多角的に地域の自然環境の特徴を見出し，その背景や影響とあわせて考察する力を問うた。問1は，火山の分布から沈み込み帯の位置を考察し，そこから大陸棚分布の正誤を判断する力を問うた。問2は，河川に沿う地形概観に関する知識と，河口の地形の成因に関する知識および土砂供給量の多寡を考察する力を問うた。問3は，河川流域の植生被覆割合の情報に基づき，流域の植生と気候の広がり思考できるかどうかを問うた。問4は，1月と7月の降水量や気温がどのような等値線の形状になるかを，気温の年較差や降水因子の季節変化に関する知識に基づいて思考できるかどうかを問うた。問5は，熱帯低気圧，地震，火山を取り上げ，それぞれがどのような場所で発生するかを，アフリカ各国の自然環境の知識に基づいて思考し，判断することができるかどうかを問うた。問6は，土砂災害は梅雨や台風の時期，雪崩は積雪・融雪期に発生頻度が高いことなどの知識から，災害分布やその季節性を思考できるかどうかを問うた。大問全体の平均得点率は標準よりも低く，やや難問であった。

第2問 本問は，学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」における「イ 資源，産業」に関する大問である。具体的には，資源・エネルギーと経済発展，それらと環境の相互関係をテーマとして「現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる」こととし，資源・エネルギーにかかわる現状と問題点について主題図や統計などの資料から，多面的・多角的に理解して探求する力を問うている。大問の内容としては，化石燃料の分布と特徴，人口動向と1次エネルギー消費量の地域別時系列比較，統計データの読み取りを通じた経済発展と資源利用のメカニズムの理解，さらに個別具体的な国ごとの資料を通じた二酸化炭素排出に関わる考察を経て，循環型社会に向けた方途と取り組みなどを段階的に問うことで資源利用とその問題，循環型社会へ展望を見据えた構成として小問をつなげている。授業において生徒が資源・エネルギーについて学習する場面を想定し，資源問題や現代の諸課題などの融合的な問いを通じてSDGsを意識したテーマを探求していく学習プロセス型を企図した。大問全体の得点率は標準的であり，問1，問2，問6の正答率が相対的に高かった半面，問4の正答率が相対的に低かった。

第3問 本問は，学習指導要領(2)「現代世界の系統地理的考察」のうち，「ウ 人口，都市・村落」および「エ 生活文化，民族・宗教」に関する大問である。各小問では村落・都市や人口に関する系統地理的な概念的知識をもとに，提示された資料から正答に至るまでの過程を思考させ

るようにした。問1は空中写真をもとに伝統的な村落の変化を社会、経済的条件を踏まえて考えさせる問いとした。問2は生活に関連した施設(交番・駐在所, ゴミ処理施設, 市民ホール)の立地を, 施設の性格と人口分布や市町村界を関連付けて考えさせる問とした。問3は説明に関する文章と複数の指標の主題図の読み取りから, 先進国におけるジェントリフィケーションの概念の理解について問うた。問4では国家や地域, 都市間関係やグローバルな都市システムを踏まえて, ヨーロッパの主要な都市における国際的な人の移動を問うた。問5は国ごとの人口構成の差異ならびに国全体および移民の人口構成の違いをそれぞれ思考して明らかにする力を問うた。問6は出生率と死亡率の変化を, 人口転換モデルやそれぞれの国の経済や社会条件を踏まえて考察する力を問うた。大問全体の得点率は概ね標準的であった。

第4問 本問は, 学習指導要領「地理B」の「(3) 現代世界の地誌的考察」における「イ 現代世界の諸地域」に関する大問である。具体的には, 「ラテンアメリカの自然と社会の多様性」をテーマに, 同地域の自然環境, 社会・経済活動を取り上げ, 主題図や統計資料などから多面的・多角的に地域的特色を見出す力を問うている。大問の内容は, ラテンアメリカ全般に関する中間(全4問)として, 気候的特徴と河川の差異, 発電エネルギー源の地域差, ブラジルの農業と農産物輸出の変遷, 主要国の経済状況と社会格差の差異, さらにチリとニュージーランドの比較地誌の中間(全2問)として, 両国の自然環境の類似点と相違点, 両国の輸出品目の差異や貿易の変遷について問う, 合計6つの小問で構成し, 内容の重複がないように留意した。「(1) 様々な地図と地理的技能」で学習した成果を活用して上記のテーマを考察できるように, 単純な知識を問うのではなく, さまざまなデータの読み取りと分析から地域的特色を考察させる作業を小問中に含めている。大問全体の平均点は他の大問に比べると若干高かったが, 概ね標準的であったと考える。

第5問 本問は, 学習指導要領「(1) 様々な地図と地理的技能」の, 主として「イ 地図の活用と地域調査」に関わる大問である。北海道苫小牧市を対象に, 調査前の事前学習⇒現地調査⇒調査結果からの考察という過程を辿るように, 現地での調査活動や統計類, 主題図などを用いて大学入試共通テストで問いたい地理的な思考力, 判断力, 表現力等を多面的に問うた。問1では, 地域の概要を把握するために, 山地や市街地などの位置関係を正確に判断できるかを問うた。問2では, 地域の特徴的な海岸地形を, 形成過程や季節性を踏まえて考察する力を問うた。問3では, 位置や地形, 海上貨物取扱量を室蘭と比較し, 苫小牧の発展の要因を考察する力を問うた。問3を受けて, 問4では, 製造業の業種ごとの特徴とその立地特性, 北海道内での各業種の位置づけ等を踏まえて, 苫小牧市の製造業の変化を考察する力を問うた。問5では, 苫小牧市内部の特徴的な地域の人口構成とその変化を, 写真や高校生のメモをもとに判断する力を問うた。問6では, 主題図から都市問題を抱える地域の特定とその解決策を構想する力を問うた。全体として, 地理Aと共通問題であり正答率はやや高いものの, 識別率は適切であった。大問全体では正答率は標準的であったが, 問4のように正答率が低い問題と, 問1や問6のように正答率が高い問題に分かれた。また, 地域的に有利・不利の差は生じていないといえる。

3 出題に対する反響・意見についての見解

第1問 自然環境に対する多岐に渡った, 考えさせる良問が多かったとの評価を受けた。思考力, 判断力, 表現力等を意識するあまり, 狭い地域を対象にした結果, 難易度が高くなったとの指摘もみられた。問1は, 単に火山と大陸棚の知識を問うのではなく, プレーートの境界をもとにしながら全体を考える良問との評価を得た。問2は, ヨーロッパの南北による地形概観を把握するという点において良問との評価を受けた。問3は, 気候, 植生等を総合的に考察する内容

になっているとの好意的な意見がみられた。問4は、気温と降水量の季節や地域による変化が明瞭なオーストラリアを選んだこと、さらには単純な数値ではなく＋・－で表記した目新しさも評価された。問5は、アフリカの地形と気候の双方を問う良問と評価された一方で、当地域が台風や火山、地震災害の印象が薄くやや難題ではないかとの指摘があった。問6は、題材としては興味深いとしながらも、冬と春の判別がつきづらく、難問であるとの意見があった。全体的に思考力を問う姿勢や新たな出題形式が評価された。その反面、多様な地域スケールでの出題や、防災や社会的条件を加味した出題を検討していく必要がある。

第2問 資源利用の問題と環境問題を軸に学習プロセス型で展開する出題形式であった。各種統計資料の読み取りや新形式のグラフなどを提示して地理的知識をもとにした思考力、判断力、表現力等を試す適切な内容であり、難易度も適当であったとの評価が得られた。問1は大問の最初として解きやすく適切な難易度との評価が得られた。問2は地域別人口とエネルギー消費の変化に関する資料から、各地域の資源利用の特徴を考えさせる問いであり、難易度は平易との評価であった。問3は二酸化炭素排出量と経済水準との関係について論理的に判断する工夫された良問との評価であった。問4は問3の内容をさらに深めた内容となっており、各国の人口規模に関する知識をもとに考えさせる良問との評価を得られた。問5は森林資源の動向に関するグラフの読み取り問題で、4つの指標を一つの立体グラフで表示した新しい試みについては高く評価された。問6は生徒の探究活動をまとめて成果発表を示す形式で、持続的な資源利用の課題と問題点を考察させる小問であったが、問い方は平易であるとの評価であった。大問全体では、難易度が適切であり、実際に生徒が主体的に探究していくプロセス型として多角的・多面的な設定については一定の理解と評価が得られた。

第3問 出題分野が村落・都市と人口に絞られていたが、他の指標や地域との比較を踏まえた論理的な判断が求められ、地理的見方や考え方を問うた良問が多く、GISや統計地図など学校現場での利用に向けた示唆が多いと評価された。一方、問い方や難易度について工夫が必要な点も指摘された。小問別では、問1は、伝統的な村落の変化という新視点の取り入れが評価された一方、問い方に関する工夫について指摘を受けた。問2は、施設の配置について日常生活の経験や施設の特性、人口や市町村界など様々な指標から判断する良問との評価を受けた。問3は、ジェントリフィケーションの概念と、指標の読み取りから判断する問題で、良問だがやや難との評価であった。問4は、旅客流動を、様々な地域スケールや国家間関係に基づいて問う良問だが、難易度は高いと評価された。問5は、人口ピラミッドの違いを考える目新しい問題であり、標準的な難易度だが良問との評価を受けた。問6は、出生率と死亡率の経年変化を扱う問題であり、標準的な問題で取り上げる国も適切との評価であった。本問は、日本の内容も含むため、全国の受験者が生活する地域のバランスを取りつつ、新しい出題形式や表現方法を模索して、地理的な思考力、判断力、表現力等を問える作問を目指したい。

第4問 本大問は、地図やグラフなど多様な資料を用いて、地域的特色の理解や地域間の結びつきについて思考力、判断力、表現力等を測る設問で構成され、難易度は標準との評価を受けた。問1は2つの河川流域を比較するもので、降水の季節変化に関する知識をもとに自然環境の特徴を考察する良問と評価されたが、平均流量の判別はやや難との指摘もあった。問2では、グラフから主な国の発電エネルギー源を考察する問題で、さまざまな知識をもとにグラフを読み取り解答する良問との評価を得た。問3はブラジルの農産物輸出の変化について、輸出額という絶対量とコーヒー豆の輸出割合という相対量を読み取る技能が求められる問題と評価された。問4は3か国間の経済格差と国内経済格差に関する問題で、図の両軸を正しく読み取れば解答しやすい問題との評価を得た。問5はチリとニュージーランドの自然環境の共通点と相違

点を判別するもので、二問とも易であり、新しい問い方は評価できるが解答方法に工夫を求める指摘があった。問6は二つの国の輸出産品の差異と貿易の変化を考察する問題で、環太平洋地域での結びつきに着目した思考力、判断力、表現力等を問う良問との評価を受けた。本大問は、基本的な地理の知識を基に、修得した知識を活かして解答することができ、難易度、出題形式、設問数、文字数のいずれも適切であると評価された。今後も良い評価を得られるように努めたい。

第5問 地図の比較や統計データを含む各種資料の読み取りなど、従来の出題傾向を踏襲した問題構成で、地理的な見方や考え方に基づいて解答する点が評価された。また、地域調査の展開や図表の示し方について、適切であると評価された。一方、全国や他地域との比較からその地域の特色がみえる問題構成への示唆もあった。小問別では、問1は、地図の読み取りで対応でき、平易であると評価された。問2は、地形図の読み取りや地形の形成プロセスを踏まえた問題で、基本的であるが良問との評価を受けた。問3は、港湾都市にかかわる図の読み取りから地域間比較をする問題で、平易との評価を受けた。問4は、製造業の判別について問3との連動性が評価されつつも、前提となる苫小牧市の理解がないと解答が難しいと評価された。問5は、写真と図の読み取りから地域の特徴を判断するもので良問と評価されたが、図の表現で工夫も示唆された。問6は、図の読み取りから地域問題の解決を構想する出題形式で、平易であると評価された。地域調査の問題として、臨場感を出して地域の特色を明らかにしつつ、適切な資料や過程を踏まえて思考力、判断力、表現力等を問う問題作成を、今後も追求していきたい。

4 ま と め

- (1) 「地理B」の学習指導要領の目標と内容に沿っており、学習指導要領を踏まえた幅広い分野・領域から出題されているとの評価を得た。その一方で、資料数や文字数が多く、読み取りや因果関係の把握・考察に時間を要する出題も散見されるとの指摘もあった。これらについては、解答にかかる時間に十分に配慮するとともに、地理的な見方や考え方から解答に到達できるように出題しており、この観点から引き続き問題作成を行っていきたい。
- (2) 難易度については平均点が58.99点で、昨年度と比べて1.07点低く、「日本史B」よりも高かったが、「世界史B」より低いという結果となった。ただし、評価書で指摘されたように、難易度としては適正であったと考える。また、学習量に比して高得点が取りにくい傾向が例年通り続いているとの指摘を受けた。「世界史B」や「日本史B」との難易度調整にも配慮しつつ、引き続き適正な難易度の問題作成を目指したい。
- (3) 多様な資料を活用した出題が評価された。一方で、ほぼ全ての問題に受験者にとって初見となる資料が付され、これらを着実に読み取り多面的・多角的に考察することが求められ、解答に相当の時間を要する点や、文字数が多い点について指摘があった。これらの課題について、今後も継続して検討を重ねていく必要がある。
- (4) 出題のバランスについては、全問題を通しての分野のバランスが保たれ、高等学校で学習した事項を余すところなく網羅する工夫がなされているという評価であった。また、多様な資料を用いて、知識の質や、知識に基づく思考力、判断力、表現力等を発揮して解答する問題が重視されており、扱う地域についても世界・日本ともにバランス良く出題されているという評価であった。全体として、おおむねバランスよく出題されたと言えるが、引き続きバランスのとれた問題作成を目指したい。
- (5) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題

作成であり、問題作成の基本的な考え方および地理の問題作成方針に沿った良問が多いという評価であった。特に、高等学校の教科書で学ぶレベルの知識を基本としつつ、大学教育や社会生活の中で必要とされる力、すなわち様々な知識を結びつける深い理解、資料の読解を通して発揮される思考力、判断力、表現力等が試される問題と評価された。次年度以降も、地理的な思考力、判断力、表現力等を多面的かつ多角的に問うことのできる内容で、かつ適切な難易度・分量で出題する努力を継続していきたい。